

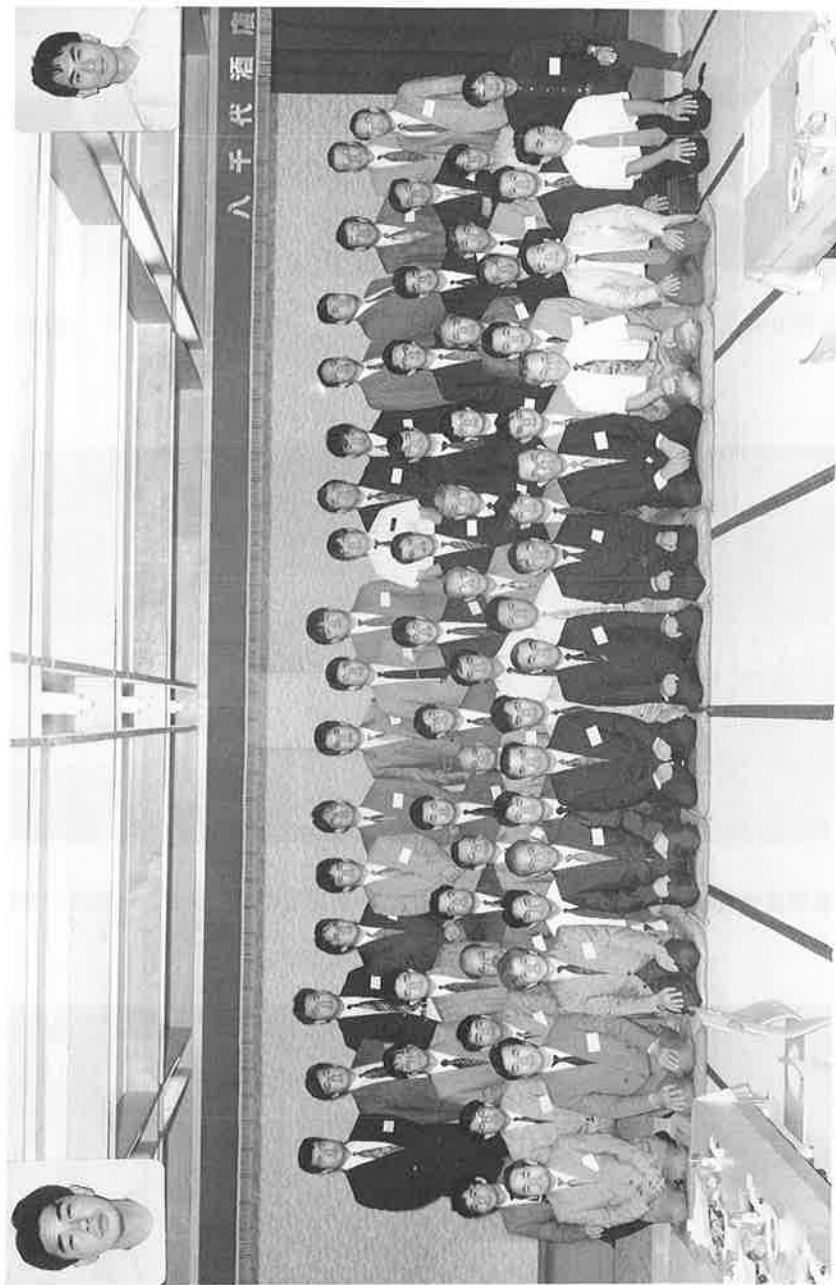
宮崎医科大学整形外科

同門会誌

第 4 号

平成4年11月

宮崎医科大学整形外科学教室同門会



宮崎医科大学整形外科学教室同門会総会 平成4年6月20日 於 魚よし

同門総会スナップ写真



談笑中の prof.



今後共よろしく！ 医局長



新入医局員全員整列！



ドレミの歌。さて、一番多い音符は？
答えは…“ミ”



私達飲み過ぎ!!



“サインはV”

目 次

ご挨拶	会長 河野 雅行	1
ご挨拶	教授 田島 直也	2
随 想		
	玉井 達二	3
	木村 千仞	5
	河野 雅行	6
	田島 直也	7
せいゆうかいだより	岡田 光司	8
新賛助会員	甲斐 佐	9
医局長雑感	戸田 勝	11
臨床研究	中村 誠司	12
臨床研究	黒木 俊政	13
施設紹介		
岡田整形外科医院	岡田 光司	14
公立多良木病院	久保紳一郎	16
五ヶ瀬町立病院	柳園賜一郎	17
回 想		
第35回野球大会	帖佐 悦男	18
医局旅行	帖佐 悦男	20
大学院とは	樋口 潤一	22
大学の夏休み	谷口 博信	22
新入医局員紹介		24～30
教室同門の研究業績		31～45
同門会員名簿		46～65
賛助会員名簿		66～71
編集後記		72

挨拶

会長 河野 雅行



皆様方におかれましてはますます御繁栄のこととお喜び申し上げます。

同門会におきましても、今年度の新入会の先生方をもちまして会員数100名を越す大所帯となりました。誠に喜ばしいかぎりです。

一方組織が大きくなりますと、医学界におきましても、地域の医療活動におきましても、応分の負担が増えて参るものと思われまます。

既に学会、各種の講演会、各地の医師派遣協力、医師会活動等々、同門会諸氏のご活躍を見聞きする機会が増えて参りました。これも御苦勞なことではありますが、大切なことと考えます。

又、先日来皆様方には、来年度の学会協力として大変な御無理をお願い致しましたところ、早速全面的な御協力を頂きまして、目標を達成することが出来ました。

学会執行部に代わりまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

このうへは、学会執行部の先生方になお一層御努力頂きまして、立派な学会を成功させられます様、期待致します。

厳しい社会情勢の中、公私共にお忙しい日々が続くことと思われまます。皆様方のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

ご 挨拶

教授 田 島 直 也



宮崎医科大学整形外科学教室同門会誌もここに4号の発刊の運びとなり、誠に喜ばしいことであります。

今年は新入医局員は10名であり、賛助会員を合わせ、同門会員はついに100名を越え、一躍大所帯になりました。

今後は名実ともに内容のある立派な教室にする責任の重さを痛感しています。基礎的研究は脊椎外科関係がmainになっていますが、少しずつ充実してきていると思います。

又、今年秋から来年にかけ教室が主催・主管する学会等は、本年10月に第39回九州リハビリテーション医学懇話会、来年3月の第2回日米整形外科スポーツ医学国際会議（ハワイ）、来年7月の第19回日本整形外科スポーツ医学会（宮崎）があります。九州リハビリテーション懇話会には津山直一東大名誉教授の特別講演を予定しています。日米整形外科スポーツ医学会の方は日本側の事務局を宮崎医大に置き、担当桑原講師の下でやってもらっていますが、アメリカとの交渉、日本国内の調整と、思ったより気を使うことが多いようです。又、来年7月の22、23日の日本整形外科スポーツ医学会のほうは学術発表ばかりでなく、sport activitiesもあり、いささか戸惑いもあるものの、少しずつ準備を進めています。特にこの中にマリンスポーツを入れる予定であり、いずれも教室同門のご協力ご支援が必須でありますので、どうぞ宜しくお願い致します。



「こんにちは」 私のこの頃

玉井 達二

大変ご無沙汰しました。皆さんお元気で過ご
しのことと喜んでおります。

私はこの頃、物忘れをしたり、教えられたり、
考えさせられる日々を送っています。

先日、町を歩いていましたら古本屋さんがあり
ましたので、ふらりと入ってみたら、穎原退蔵氏
の『蕪村』（ご承知の有名な俳人）と言う本が目
に止りました。柄にもなく風流ごころをかき立て
られて、1,000円払って手にいれました。家に帰っ
て、『何時頃の本かな？』と見ましたら、昭和18
年の発刊で定価は2円50銭、勿論、消費税は書い
てなく、時代の流れを感じました。

座布団を枕に早速読んでおりましたら、

梅老いぬ 去年に半ばず 花の数

（大魯）

という句が目にとまり、『なんとも身につまされ
るではないか！』と頭を抱えました。

本当にこの頃は色々なことで、年を感じており
ますが、体力は勿論、物忘れには困っています。
物忘れは、家ではご愛嬌ですんでも、外ではそう
はいきません。

お顔を目の前にしていても、お名前が出てこな
いで失礼をしてしまいます。

この間、日本整形外科学会で『桑原先生と長鶴
先生と間違えた』と田島教授にお話したら笑っ
ておられたが、我ながら呆れてしまいます。

実は先日も、ある会での挨拶で『……前の南海

の捕手で、今ヤクルトの監督の』で後が出なくな
って『えーと』といって黙ってしまいましたら
（野村！）という声が掛かりました。『ありがと
う御座いました。年を取るとこうなって困ります。
——』と言って頭を掻き掻き話を進める始末。

そして今日もまた、老人保健施設の祝辞で、
『…この頃は高齢化社会と言われますが、今から
4,000年前は平均寿命は18才、2,000年前は22才で
2,000年の間に4年しか伸びていません。……』
と言う積りを、『20年』と言ってしまって、慌て
て言い直したのはいいが、今度は200年と言っ
てしまって、もう一度2,000年と言い直す有様。

今までは呆け防止の為に、なるべく覚えてお話
しようと努力をしていましたが、これからは書いた
ものを読むとにしようかな？などと弱気なこと
を考えています。

教えられる事は、今始まったことではありません
せんが、数えたら切りがありません。本を読んでは
教えられ、お話を聞いては教えられ、講義の準備
をしながら『こんなことも知らなかった』と
教えられます。『教えることは教えられること』
とはよくいったものだと感心しています。

同じことを何回も話したりして、『はっ』と気
がついて、『やれやれ、俺も年取った』と思い知
らされています。

でも、『人間は死の瞬間まで成長すると言われ
ているから、まあいいか！』と諦めることにしま
した。

ところが、この頃は絨毯のすみや、一寸した段

差があると躓いて、困ったことだと思っていました。

ところが、『…年を取ったら躓けない。躓くと言うことは、転んでも立ち上がれるということで、老人は転んだら立ち上がれない…』と堀秀彦さんが言っておられるのを読むと、そう言えば、「私が転んだら、立ち上がるどころか、下手をしたら骨折して入院、挙げ句の果てに呆けてしまうのが落ちかな？」などと考えてしまいます。

もう10年程前になりますか、『転ばぬ先の杖、転んでからの杖』と言う話をしたことがあります。壇上に上がった途端にマイクのワイヤーか何かに躓きましたが、転ばずに済んで『こういう事があるので、注意しましょう』などと老人会の方々の前でお話をしたことを思い出して嫌になっています。

『昔から七転び八起きとった言葉がある。ダルマさんは、重心がしっかりして安定している、だからいくら転がしても、すぐさま元の姿勢に立ち戻る。……精神的にもこのことは当てはまる。……精神の中心になるべき何かがあるということだろう。さしずめ神や仏への揺るぎなき信仰など、そうしたものがあれば、それが精神の重心になる。……』と堀さんは続けて言っていました。それなのに、私は「今の自分には、神や仏はおろ

か、精神の重心となるものが何もない」と考えさせられ、独りでぼやいています。

人間は、年ごとに増える荷物を担いで歩いて行きますが、だんだん重くなる上に、私などは、その荷物の担ぎ方も悪く、その上、心の重心がありませんから、バランスをくずして倒れたら起き上がれないだろうと考えると憂鬱になります。

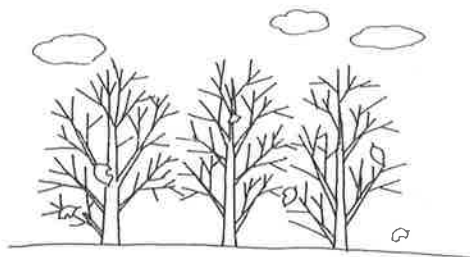
『これからは荷物を増やさないようにしよう』と反省しましたが、ふと、自分の年を考えて『こりゃ——間に合わん』と気が付いて、独りでクスクスと含み笑いをしました。

年を取ると『私は人生経験を持っている』などといくら格好をつけてみても、活力溢れる若い人に比べれば、あちこちが傷んでいて、様になりません。どんな物にも夫々『さかり』があり、生ものには食べ頃があって『早めにお召し上がり下さい』とか、『食べ頃・某月某日』などと書いてあります。人間だって同じでしょう。

そんなことを考えているうちに何時の間にか「こっくり、こっくり」居眠りをしていました。やっぱり年ですね。少し弱気になったかな？『いやいや年に負けてはおられん』と自分に鞭打つこの頃です。

皆さん、どうぞお元気で！

また、お会いする日を楽しみに！





「こだわり」

木 村 千 俣

先日ふと朝のラジオで耳にした話である。国内のあるレストランで、イラン人客が注文した食事の中に鶏料理が出た。客は「この鶏は首を切って殺したものか、首を捻って殺したものか？」とウェイターに聞いたが、知らないと答えたらシェフに聞いてこいという。聞いたがシェフも知らないそうだと答えたら、客は何やらブツブツ言いながら鶏肉を食べて帰った。数日後、同じ客がそのレストランに来て同じ食事を注文し、再び首を切ったか捻ったかの押問答で解らないと答えた返事が気に食わず、料理をひっくり返して席を起ったという。あとで解ったことだが、そのイラン人はイスラム教徒で、首を捻って殺した鶏肉は食べるが、首を切った鶏肉は食べない習慣があるそうで、宗教上の戒律を守ったわけである。しかし、人種も宗教も異なる国へ行って、この様な自己中心的なこだわりの行為が一般的に通用するだろうか？たとえそれが一部の信者にすぎないとしても。

宗教と食事の問題は多様であって、個人では我慢も作法であるが、国家間となると重要な事柄に変わる。三十余年前、民族学をやった義父の話である。あるとき、パキスタンの高官が日本に来た折、吾国の外務省関係者が夕食を接待したとき豚肉料理が出されたという。あいにくお客様は回教徒で、豚を食べない習慣であることが日本側のお役人に解らず、大変失礼したという。日本人の多くは他民族の宗教に不勉強であり、国際人としていま1つ配慮に欠ける点があることは心すべきことである。

一方、宗教へのこだわり過ぎも困りものである。先般の新聞で、ブルネイが輸入した日本製タイヤの溝の模様が、コーランの一筋に似ており、イスラム教を侮辱しているとしてキャンセルになった記事があった。意図的ではなかったとしながらも日本側が謝まったらしいが、これもこだわりすぎの感がありはしないか？

過去の宗教が、現世の利益を重んじ、病気や貧困からの救済を約束したのは、それが人々の共通の願望であったからで、同志が相集まって団塊となり、団結を強くしてグループの平和を守った。これが複数化して国・民族が異なれば摩擦を生じ、歴史的にも多年にわたる宗教戦争・民族紛争となっていて、いつ果てるともなくくすぶり続けているのが現状である。

戦前の記憶では、わが国の主な宗教は神道教派、佛教、キリスト教くらいしか知らなかったが、第二次大戦後は「踊る宗教」にはじまり、次々と外国から入ってきたり、国内で生れたりして現在百数十にのぼるようである。最近話題となっているのは、幸福の科学やオウム真理教・統一教会さらに米国からの応用宗教哲学といわれるカルト宗教集団（サイエントロジー教会）などがあり、私ら凡人にはとうてい判り難い宗教ブームが巻き起っている。

以前、新しい宗教の信者といえば、狂信的で独断的な人が多く、指導者役が好きで科学ざらい、他との協調性がなく何かコンプレックスがあるようなタイプを多く見かけた。しかし現今のように

豊かな生活、祖国の繁栄、世界の平和の中で生まれ育った若者がどっと流れゆく新宗教の魅力は、科学的な因果関係の支配を信じている吾々古い人間には、未だ理解できない別の世界にあるのだろう。とはいえ科学を信仰しているという吾々も、宗教とは異った次元の科学・技術の真理の信仰者

なのである。それにしても、先に述べたようなこだわりすぎの信者が一部であることは別としても、新・旧宗教の信者間、または彼らと吾々無宗教人民との間で摩擦がおこることのないようお願いしたいものである。

随 想

回 想

河 野 雅 行

春 —— レンゲの花 麦の青 鶯の声

夏 —— 蛙の大合唱 稲の黄金色 虫の大発生

秋 —— 苧田でのバッタの跳躍 集中豪雨による床下浸水

冬 —— 一面の霜畑 子供達の凧揚げ 目白の声
回りは、田んぼと藪しかなく、太陽が地の端、山の端より昇り、没むのが鮮やかに見えました。又一日数回、日豊本線が通過するその先には、日向灘がよく見えておりました。昭和55年開業した頃の周囲の状況です。

“そんな人の居ない所で開業して、誰を診療するつもりか？”

口の悪い友人からよく言われたものでした。当にその通りで、庭の草取りが毎日の日課であり、合間に診察をしておりました。其の内周囲に家が建ち並び、季節を感じるものが少なくなって参りました。太陽も家の屋根から昇り、沈む毎日で、

ともすると一日中、日に当たらぬ事もあります。最近では、草取りをしようにも、アスファルトだからで、引き抜くのが可哀な草ばかりです。

患者さんの動勢をみますと、当時は整形外科的な疾患だけではなく、外来、手術共に全科に渡っておりましたし、毎日数件の往診依頼がありました。大概の場合は何とか対応しましたが、抜歯、お産の依頼には対応できませんでした。

最近では患者さんの意識も大分進んだ事と、周囲に他科の先生方が開業されたおかげで、その様な事は殆どありません。安心した反面あの雑然とした活気が無くなり、何となく物足りなさすら感じております。

今後何時迄続けられるかは分かりませんが、少しでも回りを見渡すゆとりを持って行きたいものと考えております。

母校を大切に

田 島 直 也

早いもので、今年も7月になった。今年の梅雨は例年より雨が少ないと思う。3月に沢山雨が降ったから少ないのだろうという人がいるが、因果関係ははっきりしない。

今年の我々の教室の新入局者は10名であった。これは学内の他の教室に比べて一番多かったし、又整形外科教室としても今迄で最多であった。20数名の入局者がいる他大学の整形外科教室と比較すると2分の1以下であるが教室、同門のほとんどの人は喜んでくれ、お陰様で賛助会員を合わせ100名をこえた。

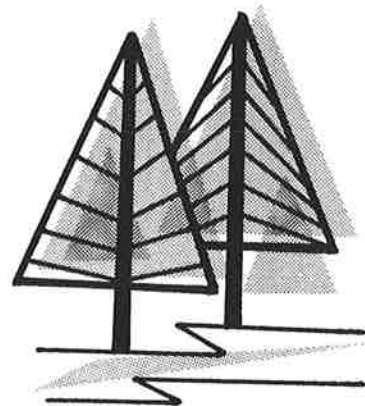
ところで宮崎医大の卒業生は94名で内大学に残った者のは40名であり、前年度の卒業生、他大学からの卒業生を含め、結局本学での研修一年目は55名である。

県外からの学生は多くは故郷に帰り、又県内出

身者も卒業後しばらくは県外でと希望する者もいて、結局母校に残る者は少ないのが現状である。この傾向は他の新設医大も同様であるようである。

新設医大は時の田中首相の無医大県解消と地元への医師不足対策を目的に作られたものである。

しかし実際、入局が少ないと教室としても活気がなく意気も上がらなく、研究面でも関連病院をふやすことも支障が出てくる。少なくとも卒業生の7～8割の人は残って各基礎、臨床教室に入り横の連絡をとりながら、各教室の柱になってもらいたいものである。地元には大きな病院がないのもひとつの理由かもしれないが学生の諸君も母校を支えるのは自分たちであるとの意識を持ってほしいものである。又、大学全体としてもっと学生との対話も必要ではないかと思う。



せいゆうかいだより

せいゆうかいだより 2

岡田光司

平成4年9月18日(金)、“メリディアン”ホテルで“第2回せいゆうかい”が開催されましたのでご報告いたします。昨年は台風19号のため、直前で中止となり、1年の順延でようやく開催することができました。

昭和52年11月の宮崎医科大学付属病院の開院当時(15年前)のかつての2階東病棟で活躍した医師・看護婦スタッフによるOB会です。木村元教授をはじめ男性軍9名、女性軍9名の総勢18名でした。福岡より参加予定の田坂元婦長が都合にて出席できませんでしたが、2階東の現役として田島教授、伊勢助教授のご参加をいただきました。男性軍9名のうち4名が勤務医(医大関係者2名)、5名が開業医でした。女性軍9名のうち5名が中城婦長をはじめ看護婦現役(医大関係者3名)、2名が保健業務従事、2名が事務職という内訳で、欠席者には子育て最中の

方が多かったようです。

15年の歳月にかかわらず当時と相変わらずの皆様方でした。元気はつらつ、にぎやかに飲んだり食べたりしながらお互いの近況報告を交え、おしゃべりの尽きない会となり、大いに満足していただいたようです。会の趣旨の素晴らしさにつきましては、出席の皆様ご一同のご理解をいただきまして、“是非、せいゆうかいの存続を!”ということでしたので、お世話係りといたしましても安心いたしました。ともあれ旧交を温めあう意義ある一時を過ごすことが出来ました。

次回の係りは矢野先生、中城婦長さんのお二人に、また開催は2年後の平成6年の秋にということに満場一致で決り、楽しくもあわただしく1次会は終了しました。つづいての2次会までは私共お世話係りが任務を遂行いたしましたのでご報告まで。





新入賛助会員としての御挨拶

甲斐 佐

入会の動機：昨年の夏も終わる頃でしたが、突然の高熱に引き続き肛門周囲の腫脹と激痛を生じて、大量の抗生物質も効果なく、遂に切開排膿を余儀なくされました。結局二十年来の痔主が痔瘻主へと格上げとなったのです。それとともに不快感も一桁上昇、日ごろの診療どころかADLにも支障を生じて、思い切って根治手術を受けようと覚悟を決めました。しかし一週間以上も診療を休むのは、診療所の経営上不安でなりません。

出身教室からは、こちらの都合のよい返事が貰えません。そこで思い切って戸田先生に御相談致しましたところ早々に話がまとまりまして、後顧の憂い無く入院手術を受けることが出来ました。

「遠くの親戚より、近くの他人」という言葉を身をもって知らされたのですが、出来ることなら「近くの親戚」になったほうが更に都合が良いだろうと、全く利己的な考えから入会の申し込みを致しました。幸い6月20日の同門会におきまして賛助会へ入会を許され、晴れて御同門の一端に加えられました。何卒宜しく願い申し上げます。

当医院の経過：昭和51年12月開院。市内では8番目の個人開業でした。最初は県病院在職時の余勢をかけてLoveやRobinson、果てはLaminectomyまでやっておりました。しかしリスクもありますし、一人相撲では面白くありません。しかも検査技術は日進月歩です。次第に面倒になり、もっぱら外傷の修復に専念するようになりました。今ではヘモや後述の頸の持病のせいもあって、更に守

備範囲を縮小して腰麻或は伝麻の駆血野で出来る小手術しかやらなくなりました。勤務医の頃、先輩の診療手伝いに行き手術室が物干場になっているのを笑ったことがありましたが、小生もそろそろ笑われる状態になっております。

もっともこんなことを書くと木村先生や田島先生に本当に笑われそうです。殊に田島先生は小生と同じ37年の御卒業ですから「なにを寝ごと云っているんだ」とお叱りを受けそうです。

しかし身体のどこか一部でも調子が悪いと、気力まで萎えてしまうのも確か、今では患者の訴えが我が事のように聞こえつつあります。

趣味：学生のころは山岳部に属して穂高や剣岳の岩登りに熱中しておりましたが、卒業後5年、ヒマラヤ遠征の小手調べに登った台湾の新高山で膝半月を痛めて以来、双石山でも手こずるようになりました。

ゴルフは10数年やっておりましたが、遂に90を切る事無く、そのうち肩凝り、項部痛、腕のシビレ、握力低下を来し、レ線を撮って愕然としました。三椎間にかんりの変性を認め、このままではいずれOPの適応になると判明したのです。スコアが延びない理由もこれで説明がついたので、あっさり止めてしまいました。

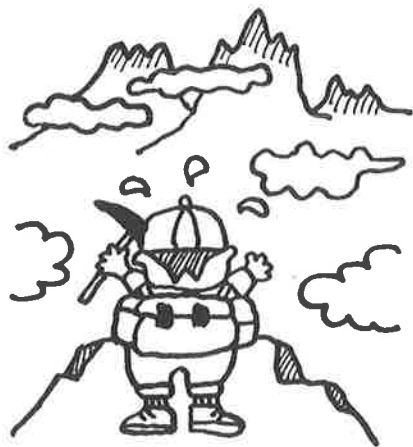
クラブが握れなくなったので、三十年前のアマチュア無線局JA6UOを引っ張りだして運用しています。超短波領域での世界100ヶ国との通信が目標ですが、一年に数分～数十分しかないチャンスは捕まえての交信にスリルを感じています。

もっともこれからの5年間は太陽黒点数が低下する時期なので多くは望めません。

さて、これから先の人生、少しは旅行もしてみたいし、体調を整えるためのまとまった時間も必

要だして、医局の先生方には何かとお世話になるかと存じます。

まことに勝手なお願いながら、くれぐれも宜しくお願い致します。





『医局長雑感』

戸田 勝

思えば、昨年12月、『医局長をやってくれ』と突然いわれ、寝耳に水とはこのことで、まったく自信がなく、少しでも医局のためになるのであればと、なかば捨て身の覚悟で引き受けることとなりました。引き受けるにあたって、前任者の桑原先生、同門会幹事の先生方に、『医局長の心得』の講義(?)を受けましたが、講義開始は、宴会終了後のため、講義終了は夜中の2時3時となることも多く、その頃から、『医局長って大変なあ』と思わずにはいられない日々でした。その講義の内容は、大学の講義同様、どういったものか、忘れてしまいましたが(講義をして頂いた先生方、申し訳ありません)、ともあれ平成4年が幕を開け、医局長としての活動開始と相成りました。医局長の役割は多々あるとは思いますが、主に、教授から指示を受ける事からの処理、医局の中の交通整理ならびに人身売買、外部との窓口があり、どうしても肩に力が入り過ぎたようで(ゴルフも肩に力が入り過ぎると良い結果は望めないのといっしょで)、早々と2月には体調をくずして3日間の入院となってしまう、みなさんに御迷惑をおかけしてしまいました。医局内では、倒れるのが意外と早かったという説が多かったようですが、退院後は、肩の力を抜いて、どうにか生きながらえております。そうこうしているうちに、6月を迎え、新入医局員10名を迎えることができ、医局は一段と活気が出てきたように思います。新入医局員の先生方には、10名という数におぼれることなく、様々なタイプの新しい力として、医局を動

かしてくれることを期待しています。

また、研究会等で、医局長という役目柄、他の大学の教授あるいはその道のトップをいく先生方と身近にお話をする機会に恵まれ、その人となりに触れることができましたことは、とても貴重なことであると思いました。一方で、前任者の桑原先生、平川先生が、医局長という重責をよく全うしていらっしゃったかが、自分が医局長になってみてつくづくと思い知らされました。特に、平川先生などは、2期つとめられたにもかかわらず、倒れもせずに、いまだ健在で驚くばかりです(?)。私などは、いろいろな面で、足もとにも及びませ

ん。医局長になってもうすぐ1年を迎えようとしています。医局長でないといわれない色々な味を味あわせて頂きました。でも、どうにか、近頃は、肩の力を抜いて、自分のリズムで仕事ができるようになってたように思います。スタンスからアドレスそして・・・ナイスショットで医局長の御役目ごめんといければと思う今日この頃です。





一年間の臨床研究を終えて

中村 誠 司

1982年に整形外科に入局して今年でちょうど10年になるが、その間にいろんな症例や疾患を経験させていただいた。またいろんな先生方や諸先輩方に指導していただいた。すべてが大切な財産になっていると思う。そのような中で自分にとってもっとも苦手な分野が handµsurgery の領域であったが、これも良き先輩に恵まれ勉強することができたと信じている。もともと clear-cut なことが好きであったこともあり、なかでも神経疾患、特に末梢神経疾患を勉強することが多かった。しかし勉強すればするほど責任病巣や病態の程度をより正確に知りたいという欲求が湧いてきた。診療所見だけではどうしても踏み込めない部分があった。そのような頃一冊の本にめぐりあった。“Peripheral neurology : case study in electrodiagnosis” (J. A. Liveson & N. I. Spielholz) という本である。筋電図検査を通じて神経疾患を電氣的に診断しようという考え方である。まさに自分が求めていたものをこの本に見出した。

1990年9月から田島教授のご配慮によって4ヵ月間慶応病院リハビリテーション科の千野直一教授のもとで臨床筋電図検査を学ぶことができた。その間医局の諸先生方や comedical stuffs の方々には大変お世話になったが、この場を通じてお礼を申し上げます。4ヵ月の間おもに整形外科の神経疾患を中心に検査法を勉強できた。その中で分かったことはそれぞれの神経について潜時・振幅・伝導速度等の正常値はあるものの、各年代別の正

常値は見当たらないことであった。できれば加齢現象をも加味して年代別の正常値が求められないかと考えていた。

1991年7月から本格的にこの問題にとりかかった。一種当たり前のようなテーマであるが、各症例を検査する場合、臨床の現場ではどうしても避けて通れない問題であった。20歳から60歳代までの約20例ずつを検査するわけであるが、検査項目は一症例15項目あり検査に苦勞した。被検神経は腓骨神経・脛骨神経・腓腹神経・腓骨神経知覚枝・伏在神経等であったが、最初のうちは知覚枝の SNAP をうまく導出できず、試行錯誤した。解剖の教科書を読んだり、学生の解剖実習で調べたりしながら、少しずつ導出できるようになった。結果は日整会基礎学会で発表する予定であるが、末梢神経の加齢現象に伴う変化をある程度捉えることができたのではと考えている。検査にご協力頂いた方々に深く感謝いたします。

最後に臨床をしていつも思うことがある。いま我々が用いている知識や情報はそのほとんどが、臨床現場から出てきているということである。「患者さんは最良の教科書」ということばは皆の知るところであるが、それは深い洞察力をもった観察の眼とじっくりとものごとを考える懐の深さがあるのはじめて生きてくると信じている。我々臨床医はまずすべては現場から、患者さんからという現場主義を大切にしていきたいものである。



「ラットとの競争について」

黒木 俊 政

平成4年7月から江南病院勤務を命ぜられ現在再び臨床をさせていただいております。それ以前の1年間は大学勤務でしたが、そのうち半年間は臨床を離れ研究をさせていただきました。スポーツ医学の臨床をそれまで勉強させて頂いて居りましたので、研究のテーマも自ずとスポーツ医学関連のテーマとなりました。スポーツ医学の臨床面で以前から長距離選手の高 creatine kinase (CK) に興味がありましたので、その原因を探るべく研究テーマとしました。

長距離選手からの筋肉を採取することは困難ですから、動物モデルで行なうこととしました。ラットの長距離選手を養成するには？これが第1の関門です。世の中には変人が多いと見えて、ラット用のトレッドミルがありました。ただし価格は200万円。これでは実験が成り立ちません。ラット用トレッドミルを自作することとなりました。ヒト用の古いトレッドミルを利用してそのベルト上にアクリル板でレーンを作成し、後方に電気刺激装置を装着し強制的にラットを運動させるのです。概念は簡単ですが、実際に作成すると大変でした。周囲のたくさんの人たちの協力により漸くラット用強制運動装置が完成しました。完成が遅くなり、かといって次の日に延ばすのは待ちきれず、真夜中に動物舎のなかで初めてラット

を装置に入れ、ラットが走ってくれたときの感動（傍からみると漫画か狂気ですが）は忘れられません。この日からラットたちにも辛い、また私にも辛い3ヶ月を送ることになりました。持久性運動は毎日、かつ3ヶ月間のトレッドミルでの走行運動を行なわなければならないからです。運動開始直後から実験は困難の連続です。電気刺激が有効に働かず、運動を忘れるラットが続出。走行中にアクリル板の蓋を開け逃走するラットが出現。電気刺激装置の変圧装置のトラブル出現。色々なことがありました。これらの困難も幸い周囲の人々の援助・協力によりどうにか乗り切ることができました。

1番辛かったのはラットの屠殺です。血液のみでなく、心筋、前脛骨筋、ヒラメ筋中のCK, LDH, PFK, SDH等の酵素やそのIsoenzymeを計測しなければならないのですから。コントロール群を含めて私が屠殺したラットは約100匹になるでしょう。次の動物慰霊祭にはぜひ出席したいと思っています。またこれらのラットたちのためにも良い論文にしなくてはなりません。

2番目以下の困難は摘出した筋肉の生化学的研究や組織学的研究に関連した困難ですが、この続きは次回に持ち越したいと思います。

施設紹介

岡田整形外科医院 岡田 光 司

整形外科医院（19床）開業8年目ですが、紹介を兼ねて近況を報告させていただきます。昭和60年4月6日が開業日すなわち将来にわたり記念すべき医院の誕生日です。場所は宮崎の市街から西方にむかって国道10号線の戰場坂を越えた一帯のいわゆる生目地区に在り、国道10号線から相生橋方面に若干入った県道沿い東側に位置しています。今でこそ小松台団地、生目台団地が隣接し、西バイパスが高岡方面に近くを通り抜けていこうとしています。開業当時は、周囲はまだ団地化されていない低い山々が広がり、それらの間に田畑が点在していたまぎれもない農村でした。今でも周囲は農業地域には変わりはないのですが、それでも当時と比較すると、建物も増え、その分、緑が確実に減りつつあります。

取り扱う疾患は当然整形外科一般ですが、地域柄、やはり農作業（田植え、稲刈り、ハウス関係の一連の作業）に関係した外傷（手・足が多い）や変性疾患（特に膝関節や脊椎など）が比較的多く、また生目中学校が近いからでしょうか、生徒のスポーツ外傷（足関節捻挫など）がよくみられます。他、内科的合併症として中高年の糖尿病、肝疾患、高血圧症、脳動脈硬化症など結構見受けられます。ホームドクターとして避けて通れませんので内科専門医との連携が欠かせません。

治療は緊急例を除いて、保存的治療が主です。徒手整復、キプス固定、神経ブロック、薬物治療などですが、これまで症例数だけはこなしてきたためか、術者、介助者共々、年々手際良くなって

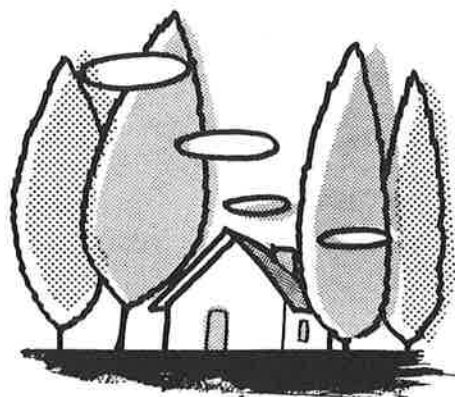
きています。理学療法は治療上、医師が直接関わらない分野ですが、整形外科的に重要で、それだけに従事スタッフの疾患や治療方針への理解が必要です。そのスタッフの育成は容易でなく、近年になってようやく専門スタッフの配置が出来てきたところ。手術例について麻酔法から分けると、断然、腰部硬膜外麻酔が多く、つまりは下肢に關した手術が多いということになります。神経ブロック、局所浸潤麻酔もしばしば用いられますが、概して上肢例に多いようです。全身麻酔は脊椎関係となりますが、これは年間数える程です。手術については患者の同意・納得、麻酔、術後管理などの問題（プレッシャー）を1人の医者が解決せねばなりませんので、手術についての適応は当然の如く厳しくならざるを得ません。結果的に保存的治療を求めていく訳で、現在、鎖骨骨折、アキレス腱断裂、足関節外側靭帯断裂などはここ近年、基本的には保存的治療でいくようにしています。

さて一昨年の5月、胆石症を思いもかけず私自身患い、手術となりました。診療から2か月余り離れざるを得ませんでしたが、その間、医大整形外科教室のご支援を頂きまして、幸いにも当医院の診療業務にさほど支障を来たことなくどうにか切抜けることが出来ました。（田島教授はじめ医局員の皆様に紙面にて改めて御礼申し上げます）このことが、開業以来の“休み無し”を反省するきっかけとなりました。具体的な対策の一つとして、昨年4月から木曜日午後の外来休診を思い切

って導入したのですが、労働時間短縮が社会問題化し始めた昨今、世間的な受入れについては特に問題はなく、タイミング的に良かったようです。

地域で医者が信頼されて医療を続けていくためには、まずは診療に真面目に、地道に取り組んでいくことは当然ですが、その前提に院長はじめスタッフ一同の健康が維持されてなければ良い医療は考えられません。そこでスタッフ全員の健康をすこしでも増進すべく、今年より近所のフィットネ

スクラブに病院ぐるみ入会し、スポーツ実践（バレーボール、エアロビクス、ゴルフ、水泳…）を心掛けている次第です。私個人にしてもストレス解消に結構役に立っています。今後も社会情勢の目まぐるしさにほんろうされていくのですが、すくなくとも健康・体力だけは損なわぬようにと考えます。整形外科の地域医療を行うに、ゆとりを持って職員共々健康パワーであたらねばと思うこの頃です。



公立多良木病院の紹介

久保 紳一郎

我が医局最初の県外出張病院であるここ公立多良木病院は霊峰「市房山（1721.8m）」の裾野に広がる上球磨地方8ヶ町村の出資により設立されたこの地方唯一の総合病院（内科・外科・整形・脳外科・小児科・眼科・歯科／計206床）です。地域の中核病院という性格上、昼夜をとわず救急車を受け入れており（ここでは一次救急、二次救急の区別は当然ありません）、さらに農業・林業及び建設業で成り立っている地方ですから、我々整形外科医の出番は必然的に多く、多様な外傷・疾患を経験することができます。病棟は外科との混合病棟となっており決められたベッド数はありませんが大体30～45床で、毎日の外来（多い時で140名）と年間約200例の手術を二人でなんとかこなしています。近くの病院・医院からの患者紹介も多く、頭を悩ませる症例に出くわすことも度々ですが、大学の先輩方と連絡を取り合っひとりよがりの治療にならないように気をつけています。また、人吉・球磨の整形外科医の定期カンファレンス会にも参加させていただいており、我々にとっては症例の相談や情報交換の貴重な場となっております。

かわってオフ・タイムでは自然の中での様々な遊びを満喫できます。まず、早起きの方や俗世間から離れて孤独に浸りたい方にお勧めなのが溪流釣りです。ここ多良木町からは山女魚＝ヤマメ

（熊本ではマダラ、宮崎ではエノハと呼ばれます）釣りのメッカといえる九州山地の数々の名溪（つまり人気のない山奥の川）に短時間で行くことができます。ちなみに院内には山女魚にとりつかれてしまった仲間が何人もいらっしゃいますので、釣り師気分を存分に味わえます。（ちなみに私はハマッてしまい、愛車RX-7がすっかり魚&ミミズ臭くなってしまいました。）

さらに、足腰が弱ったかなと思われる方にはりハビリがてら市房山登山がお勧めです。登山口のある湯山温泉まで15分ですので日帰りで充分トレッキング&森林浴が楽しめます。

また、草払いのお好きな方は、近くにチサン&球磨カントリーがありますので、ひそかに腕をみがくのもいいでしょう（注；ただしDr. Kよりうまくなると「まじめに働いてねーな」と判断され、〇〇送りになるかも？）。

アル中の方・独身の方も御心配りません。「八栄街」という立派なネオン街（読んで字のごとく8軒しかない）がありますのでここで食事と晩酌をいっぺんに済ませることができます（ちなみに「磯」の豚足は絶品です）。

以上、簡単に紹介させていただきましたが、最後に誌面を借りましてなにかとお世話になりました人吉の三浦先生に御礼を申し上げます。

五ヶ瀬国民健康保険病院の紹介

柳 園 賜一郎

五ヶ瀬町は県北の熊本県境に位置する人口五千五百人の小さな町です。特産物としては「釜いり茶」「しいたけ」「やまめ」「焼酎」があげられます。

何よりも、私にとって珍しかったのは雪で、ここ何年か雪がつもるのを見たことがなかったもので、最初にきた頃は外来の手を休めて見とれていたものでした。

スキー場は、今年年間約7万人のスキー客でにぎわいました。さらに今年からは、プラスチックスノーマットを敷きつめ、夏はもとより冬の雪不足の時もスキー場を閉鎖せずに楽しめるようになりました。

しかも夏スキーはキャタピラ型のスキー板ではなく、通常のスキー板ですべれ、スピード感も雪の上と全く変わらないそうです。「そうです」というのは、実は私は五ヶ瀬町に一年間いながらスキー板は一度もはいたことがないからです。

今になって「一度くらいはすべっておくんだな」と思いますが、スキーしてケガして入院でもすれば、と思うとやらなくて正解だったかもしれません。

ただ、スキー場へは何回も足を運びました。

リフトで下の駐車場から登っていくと山頂まで約20分かかります。下には雪など全くなき今日はスキーはできないのではないかと心配になりますが、登っていくうちにだんだんと風が冷たくなり、樹氷が見えはじめ、上につくと一面の銀世界が広がっています。それを見ただけでも満足しました。

夏がととても過ごしやすかった分、秋はあっという間に通りすぎて、10月初旬というのに早くもファンヒーター全開の朝をむかえている今の五ヶ瀬町立病院は、外科の吉川院長先生、内科の浅尾先生の他、スタッフにも恵まれ、和気あいあいとした雰囲気の中で診療にあたっています。総ベッド数は54床、一日平均の整形外科の患者数は約20人と、かなりのんびりとしていますが週に3日「へき地診療」というものがあり、3人の医者が交代で診療所に出張することになっています。いろんな地区のお年寄と顔見知りになっているいろいろな楽しい話、例えば「きのう、この裏の山でいのしがとれて夜はなべをした」とか、「明日はこの神社の祭りで踊るから、注射を一本打ってくれ」など、あげるときりがありません。

以上、簡単に紹介しました。お近くにお越しの際は是非声をかけて下さい。

第35回野球大会をふりかえって

帖 佐 悦 男

第35回西日本整形野球大会は、鹿児島大学主催により平成4年8月1日に前夜祭、翌2日に試合が行われました。前夜祭におきましては、恒例の出し物がありますが、我が宮崎医大の新入局者は、新入局歓迎を兼ねた同門会での初デビューが今一歩でしたので、一部の人からは注目を浴びていました。さて、できればはと申しますと、他の大学がいつも下品なのが多いのですが、今回は特に激しかったために、我が新入医局員の芸は、品位点では8.0（10点満点）、芸術点では6.3であったようです。来年からは我が大学は徹底的に高尚な路線でいく方が、かえって注目を浴びるような気がしました。

また、田島教授が30年選手として表彰されました。

さて、試合に関しましては前夜祭の抽選の段階では、一軍は幸運にも不戦勝が引けましたので、決勝戦のオーダーが脳裏をかすめました。しかし、実際の試合では、初戦突破ができませんでした。内容では決してひけはとっていませんでしたが、やはり試合慣れをしていないことが最も大きな原因と思われましたので今後は、強いチームとの練習試合を定期的に組み、また宮崎にも念願のバッティングセンターができましたので多いに活用すべきだと思いました。

一方、二軍の夏は多に燃えていました！初戦、二戦目とも打撃陣ならびにピッチャーが活躍し、惜しくも第三戦で敗退しましたが来年はかなり期待できそうです。もちろん一軍も優勝をめざしたいと思います。

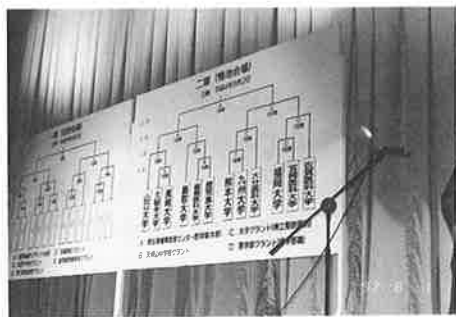




前夜祭。お色気…満点



1軍 試合開始



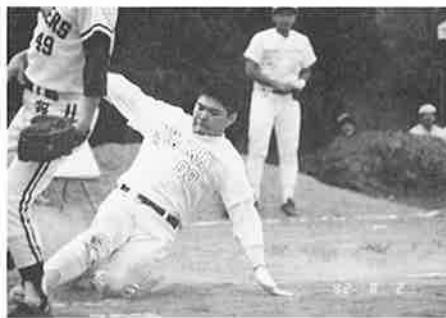
運命のくじ引き ?!!!



2軍も負けずに円陣（エンジン）全開



応援席！



ナイス！



戸田医局長。よっ、投げたり!!



平成4年度医局旅行をふりかえって

帖 佐 悦 男

平成4年度の医局旅行は、いつもと同様に計画の段階から様々な意見が飛び交い出発する前からわくわくしていました。我が教室の医局旅行は、新入医局員と病棟の看護婦さんとの親睦を第一義としていますので彼らの意見が最終的には反映されます。旅行先としましては、今回は少し遠出をしようということにより場所選定が始まりました。研究棟の意見は種子島でゴルフという意見が多数を占めていましたが（特に、現医局長...）病棟や二階の医局は圧倒的に湯布院でした。その結果は？。次に今回皆様に迷惑をお掛けしましたのは旅行日の設定で、後で看護部のバレー大会と重なることがわかり急きょ変更したことです。従って残念にも行けない人がでたと思います。また、恒例の夜の整形外科混和会の準備もいつもの学会と同様間際になって急ピッチで仕上げているようでした。

さて、実際の医局旅行は、8月29日から30日にかけてバスを利用して湯布院まで出かけました。初日のバスの中では最初は、アルコールもすすんでいたようであったが、大分までの10号線は休憩できる場所が少なく途中予定外の場所でもよおした人が出てからはみんなセーブしていたようでした。夕方には離れ続きの菊の井ホテルに無事到着。

みんなそれぞれひと風呂浴び、特に金鱗湖畔の露天風呂は絶景でした。宴会は、急きょ公用にて出席できませんでした田島教授に代わって、伊勢助教授の音頭で大宴会が始まりました。相変わらず最初から煽るようにお酒を飲む者、はたまた何を考えてか自重している者それぞれでした。今回の混和会の出し物は、是非田島教授に聞いていただきたかった、野球の練習量と勝率についてや新入医局員をうまくとらえた題材が目立ちました。ただし、演（宴）者の一人が順番がきてもすやすやと... でした。

その後の二次会、三次会は言うまでもありません。楽しんだ人、来年こそはと思った人それぞれであったと思います。

翌日は、日本初公開の木製ジェットコースター（ジュピター）がある城島後樂園に行きました。ジュピターはやはり人がたくさん並んでいました。迫力は満点だったと思います。ここでも性格が非常によく現れたと思います。ここでも性格が非常によく現れたと思います。無理をして乗って気分が悪くなった人や、乗る前にこっそり抜けてた人、満喫していた人など。……

さすがに、帰りのバスの中はみなさん疲れて居眠りに花を咲かしていたようです。



記念写真をパチリ



スライドのピントを合わせて下さい
演者「もっと光を!!」



アツアツ俺にも ホットケホットケ!
ついでくれよ!



今年の野球の総括です
本当は「帰りたくない症候群の1例発表」



半分こわかった Jupiter



私達 皆 独身!

回想

大学院とは

樋口潤一

大学院とは大学病院一病＝大学院であり、病を引くことは

①健康な人間の集まりである事を示しているとする説と②病＝臨床で臨床から切り離された生活を強いられた集団であるとする説がある（その他諸

説あるようだが、有力な二つの説を紹介した）。実際にこの説を確かめてみたいと思う人は、是非、大学院の試験を受けて、大学院生としての生活をしてみることをお勧めする。

回想

「大学の夏休み」

谷口博信

8月1日(土)

吸い込まれそうな青空であった。カーステレオからは小野リサのポップな歌声が流れ、窓では緑の景色が飛んでいた。ふと去年の8月スカイラインを潰した記憶が蘇り、アクセルから足が離れた。山之口のパーキングエリアで切らしていた煙草を買い、燻らせる、うまい。再び、車を走らせ都城の関連病院の当直へと向かう。朝8時20分を回ったところであった。

8月3日(月)

厚さ4cmにもおよぶB4のバカでかい封筒を書き留め速達にて郵送する手続きを終え、「5日必着なんです、大丈夫ですよ」と念を押して宮

崎中央郵便局の夜間受け付けを後にしたのは、真夏といえどもすでにあたりは薄暗くなった19時10分過ぎであった。封筒の中身は10日前より不眠不体で作成した力作「認定医審査申請書類」であった。車に乗り込むと、ようやく送り出したという安堵感に緊張の糸は切れ、それまでの疲労が満ち潮の如く徐々に私の身体に込み上げてきた。江平の五差路の信号待ちでそれはピークとなり、事故るのではないかという不安感によって辛うじて運転し、丸山の自宅へと辿り着いた。3階の寝室まで重い足を引きずるようにして上がり、ベッドの上に横たわった。朦朧とした意識の中で最後に聞いたのは「服ぐらい脱ぎなさい」という妻の声だ

った。

8月4日(火)

夏休みのため病棟も外来も人手が足りない。外来のアナムネを取り終え、第2診察室にて診療を開始した。……外傷後のカウサルギーっぽい患者が入ってきた。紹介状には「psychogenic reaction 疑い」とある。先入観を持たないようにして診なくては……外来の看護婦さんが電話に出てくれという。先生しか残っていないからという。西都から頸損の患者を取ってくれとのSOS。市郡医師会病院を紹介、状況によっては後日大学にて手術する旨を説明し、了承を得た。……研究室に上がり、金丸さんの入れてくれた熱いコーヒーを飲み終えると5時5分過ぎであった。大学の救急当直用のポケットベルを救急部に取りに行くためにエレベーターに乗り込んだ。

8月5日(水)

日向駅に着くと「谷口先生」と書かれた紙を持った運転手さんが改札の出口で迎えてくれた。「これからあと1時間ぐらいです。」失礼してトイレに行き、帰りにキヨスクでキャンディーを買った。朝飯代わりの飴を口の中で転がしながら、耳川の悠然たる流れを見ているうちにいつのまにか浅い眠りについた。……諸塚国民健康保険病院についたのは正午前にあった。

8月6日(木)

バイブレーターダイアルの目盛りを挙げていく。「震動がわかりますか?」「わからん。」さらに目盛りを挙げていく。初めて経験する震動病の検診であった。林業のまち、諸塚ではよくみる労災とのこと。……若い子たちが耳慣れない土地の言葉で楽しげに話している。高校総体で力をふり絞ったはずの戦士たちであるが、若さが疲れを飲み込んでいるのだろうか。汽車は日向駅をあとにした。……大学の研究棟につき、時計を見ると針は19時40分を指していた。留守を守ってもらっていた福田先生にお礼をいい、病棟に下り

た。……当直室にはいると電気がまだ点いていた。研修医の先生が「整形外科クルズス」を両手にもちながら、穏やかな寝息を立てていた。無論、シャワーの音で起こすことなどできはしない。

8月7日(金)

午前中の外来が終わり、野尻の関連病院へ向かう車の中でカレーパンを食べた。黒坂から高岡に抜けるつづら折の道を5年ぶりで通った。途中「麻生医院」の看板が目に入った。……萩の茶屋を抜けるころ、雨足が急に強くなり、前の車のテールランプが見にくくなった。野尻湖を通り過ぎると、まもなく野尻の街に入った。病院の駐車場に止めた車の窓から上を覗くと、入院患者とおぼしきおばさんたちが、(横においてある白衣が見えたのであろうか)「新しい先生がみえた。」とでも言っている様子でこちらを観察していた。……久しぶりの我が家への帰路に着く。雨足は来るときよりもさらに激しさを増していた。17時45分、カーラジオからは台風の接近を知らせるニュースが流れてきた。

8月8日(土)

台風の目にもはいったのであろうか?朝方の暴風雨とはうってかわり、窓の外は静かである。週休2日制になって6階の研究棟は閑散としている。当直の先生が先程からソファで横になっている。冷房の音とワープロのキーを叩く音だけが、聞こえている。同門会誌に「帰局の感想」というテーマで掲載する原稿を書くように仰せつかったのだが、あいにくこの1週間は大学の席をあたためる暇がなく、大学に帰ってきたという実感がまだない。大学の夏休みの1週間の出来事を綴ってみた。この原稿が同門会誌に載るか否かは定かではない。最後になったが病棟では10人のフレッシュマン達が本当に一生懸命に働いている。わたしも彼らに負けないう頑張っていきたいと意を新たにしている。時計は16時半を回っている。さてプリントアウトしたら、伸びた髪でも切りに行こう。

新入医局員自己紹介 (順不同)



氏名 飯干 明
生年月日 昭和43年1月1日生
出身高校 宮崎大宮高校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 A 型

今年、宮医大を卒業し入局しました。出身は地元宮崎県で、出身高校は宮崎大宮高校です。医学部を志望したのは中学生の頃からで何故そう考えたのか、はっきりとした理由は覚えていませんが、人間の体に興味があり漠然とその分野の職業に就きたいという気持ちはありました。自分の進路を決定づけたのは高校三年生の大学入試も迫り迫った年の瀬に、脳卒中で寝たきりになった祖父の死ではないかと思えます。自分の娘の顔も名前もわからなくなってしまった祖父が、逝ってしまう直前に口から出た一言は、「明」でした。この時期、進路を迷っていたのですが、この瞬間に医師となるべく道を決めました。入学当初は夢と期待に胸膨らませていたのですが、段々と現実がみえてくると、その理想と現実とのギャップに「本当にこの道を選んでよかっか」と考える日々もありました。釈然としないまま国試受験、そして合格。将来、救急と神経系をやってみたいという希望と、医局の体制、雰囲気が一番良かった整形外科に進路をきめました。しかし、心のもやもやは以然として晴れませんでした。

入局して、患者を持って暗中模索しながらも1ヶ月が経ちましたが、今は「この道を選んで良かった。」と心から思っています。これらもいろんな壁におち当たるでしょうが、あの祖父の死の時の気持ち、初心を忘れずに頑張っていきたいと思えます。よろしくお願い致します。



氏名 後藤 啓輔
生年月日 昭和40年6月16日生
出身高校 上野高校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 AB型

今年入局しました後藤です。出身は新潟で、その後何回も引っ越しし、宮崎に来てから7年目となりました。入局してやっと1ヵ月位たちましたが、毎日知らない事だらけで、悪戦苦闘しています。幸い、医局には、親切な先輩諸先生がいて、御指導していただき、ここの医局に入局して、本当によかったと思っ

ております。また、この諸先生達のように、タフで、知的な医師をめざし努力していきたいと思いを。

私が、整形外科を選んだ理由は、祖母が慢性関節リウマチで亡くなった事が一番ですが、それに、ポリクリでの病棟実習の時、患者さんが明るく日増しに快方に向かう人が多く、他科に比べ暗さが少ないという様な事から興味を持つ様になったからです。

入局して1ヵ月が過ぎ、ICU患者、急患を体験し、自分の知らなかった整形外科の分野が色々あるのが判り、毎日とても有意義に過ごさせていただいています。まだまだ一人では満足に何もできず、他の先生方には御迷惑ばかりおかけしていますが、諸先輩方に安心して患者をまかせられるよう、人間的にも技術的にも努力して行く所存ですので、同門の先生方、これからも宜しく御指導、ご鞭撻の程お願い致します。



氏 名 坂 本 武 郎

生年月日 昭和42年 6月21日生

出身高校 宮崎南高校

出身大学 宮崎医科大学

血液型 A 型

宮崎南高校出身で、今年宮崎医大を卒業して整形にお世話になることになりました。

実は、高校以前は、清武小、清武中という経歴であり、そのうえ職場まで清武になってしまい、ここまで来たら開き直り、清武に骨を埋める覚悟で頑張りたいと思っております。

大学時代は3年のはじめまで硬式テニス部に所属し、その後は特定のスポーツはしなかったけどちょこちょこといろんなスポーツに手を出していました。

しかし、学生時代はどちらかといえば夜から深夜にかけて行動することのほうが多く、講義などには積極的に参加するほうではありませんでした。友達の家が集まっていろんな話をしたりドライブに行ったり、マージャンをしたり楽しく学生らしい生活をしていたと思っています。

どうして整形を選んだのかというと、入局説明会での甘い言葉に騙されたわけではなく、一応おぼろげながら神経に関係する仕事をやってみたいという気持ちがあったことや、ポリクリの時や入局説明会で感じる医局の雰囲気がとてもよかったこと、また患者も他科に比べ元気で明るい人が多いだろうと思ったことなどが主な理由です。

まだ入局して一ヵ月で正直言ってわからないことだらけで、覚えるべきことがたくさんあり覚えても覚えても追いつかない状態で毎日右往左往しています。

今の段階では、将来の夢とかやりたいこととかは正直言ってはっきりわからないけど、一つ言えることは早く仕事を覚え一人前の医者に近づき、自分に自信がもてるようになりたいです。

一生懸命頑張りますので御指導のほどよろしくお願ひします。



氏 名 関 本 朝 久
生年月日 昭和42年11月4日生
出身高校 日向高校
出身大学 宮崎医科大学
血 液 型 A 型

平成4年6月、宮崎医科大学整形外科に入局致しました。この1ヵ月間に、7人の患者さんと出会いました。そしてこの短い間に、様々な事を経験しました。ここで、整形外科医として、今の自分の想いを述べてみたいと思います。

今日の医学の進歩には目覚ましいものがあり、それに遅れをとらないためには並々ならぬ努力が必要と思われれます。卓越した医療技術を持ち、かつ患者さんと、その家族の心の痛みのわかる医師、それが自分の目標とする医師像なのです。しかし、医療は医師一人で成し得るものではありません。医師間のみならず患者さん、家族の方々、看護婦、その他患者さんを取りまく全ての人々と一体となって手当てをしていく、これが本来の医療のあるべき姿と考えます。私はそのことを肝に銘じて患者さんの側に立った医療を実践していく覚悟であります。そのためには、多くの事を経験し、多くの人と接する事により、鋭い洞察力と確かな判断力、そして豊かな抱擁力を身につけるべく努力することを怠ってはならないと考えます。

患者さんが退院する時、又は無念にも亡くなられた時に、「先生に診てもらえて本当に良かった。」と心の底から言われるような医師を目指して、一日一歩づつでも決して後退することなく進んでいきたいと思えます。

又、これから先、様々な困難に直面することになるでしょう。しかし病者に対するいたわりと、病魔に対する憎しみはいつまでも心の中にあり、ここであらためて良医たらんと日々努力、研鑽する事を誓うものであります。

微力ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。



氏 名 福 元 洋 一
生年月日 昭和42年8月21日生
出身高校 宮崎大宮高校
出身大学 宮崎医科大学
血 液 型 A B 型

今年3月に宮崎医科大学を卒業し、整形外科に入局させていただきました。

学生時代は野球部に所属し、九山大会、西医体で勝つためにたいして勉強もせず、練習に燃えて汗と涙

の青春を過ごしました。成績の方は、1年から5年生のときまではいつも1、2回戦で敗けていましたが、6年生のときの最後の九山大会でみごと優勝し、有終の美を飾ることができました。整形外科に入局してからも夏の大会に向けて一生懸命がんばりたいと思います。やはりこうやって考えてみると学生時代の思い出という野球部でのことが多く、遠征のときに、福井まで丸2日かけて、鈍行列車で行って、グッタリしてすぐ敗けて帰ってきたり、夜酒飲んで騒ぎすぎて、次の日の試合で吐きながらグラウンドを走ったりと今考えれば楽しい思い出ばかりです。

整形外科に入局して、一ヵ月余りが過ぎましたが、柏木先生の御指導のもと、いろいろ勉強させてもらっていますが、毎日があわただしく感じられ、まだ何をやっているのかわからない状態で一日を過ごしているような気がします。しかし毎日が新鮮で一つ一つが何でも勉強になり、患者さんの状態により喜んだり、落ち込んだりしています。これからも今のこの気持ちを忘れることなくがんばっていきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。



氏 名 本 部 浩 一

生年月日 昭和42年10月9日生

出身高校 宮崎南高校

出身大学 宮崎医科大学

血液型 A 型

宮崎医大出身の本部です。学生時代は軟式テニス部に所属していました。

入局してようやく一ヵ月が過ぎようとしています。周りの雰囲気には慣れましたが、仕事の方はまだまだ勉強不足で、とても満足のいく仕事とは言えないようです。毎日患者さんをはじめ、先生や看護婦さんに御迷惑をかけっぱなしで早く一人前にならなければならないと思っています。今年は同級が10人と大人数で、とても楽しく仕事がやれているのですが、自分の場合、つい人に甘えて、誰かがやるだろうといった気持ちが出てしまいがちです。学生気分がまだまだ抜けていないようだなどと反省させられる事が度々あります。これからはもっと自覚を持って、自分に厳しくありたいと思っています。

学生時に、よく医者は体力だと先輩たちが言っていますが、今だんだんその言葉を実感しはじめています。今頃になってふと自分は医者に向いているかなと考えることもありますが、常に患者の立場に立って考えられる医師を目指し、そのためにも一つの事に凝り固まらず、人間的にも幅広い医師になるよう努力を重ねたいと思いますので、どうかこれから御指導の程よろしくをお願いします。



氏 名 山 口 政一朗
生年月日 昭和41年 8 月19日生
出身高校 高鍋高校
出身大学 久留米大学
血液型 A 型

入局してはやくも1ヵ月過ぎ、あいかわらず仕事に追われる毎日です。

今年の新入医局員は10人で、他の大学からの入局は自分1人だけだったのでなおさら勝手がわからずあせるばかりでしたが、すぐに医局の雰囲気になれることが出来ました。そして、実際に研修医として病棟に出て、日に日に責任の重さを感じています。しかし責任を感じれば仕事ができるようになるというわけでもなく、怒られながら1つ1つ仕事をこなしていこうと思ってます。やはり臨床はきびしく、無い頭を絞って考えるより学生時代甘やかしたこの体にムチ打って鍛える方が先決のようです。“医者は体力”とはよくいったものです。本当に若輩者ですが諸先生方、諸先輩方の御指導の程宜しくお願いいたします。

話は変わりますが、みなさん野球がとても上手で今年は西日本整形大会の優勝を目指し、週に2度、火と土曜、おまけに合宿まで行こうという気合の入れようにはただただ驚くばかりです。自分も野球は好きなので仕事と同じく一生懸命頑張りたいと思います。



氏 名 吉 田 好志郎
生年月日 昭和38年 4 月19日生
出身高校 宮崎西高校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 B 型

「整形外科医」なんというすばらしい驚きであろうか。知的で大胆、何人が聞いてもおのずとわかる確固たる職種。

この言葉を耳にして尊敬と感謝そして威望の表情を示さぬ者はいない。

「整形外科医の吉田です。」と口にするたびにどことなく自尊心をくすぐられ、また不思議と正義感、責任感、そして人に対する優しさが内から湧いてくるような気がする。

たとえ日頃は凡庸に見えても、白衣を着ると威風堂堂とした物腰。ひとたび術着を身にまよえば、鋭い眼差しに機敏な動作、適格な判断力をもった人物。学生の頃そのようなイメージをもっていました。この道を選んだ最大の理由がこれでした。

入局して早1ヵ月、「整形外科医の吉田です。」という響きに酔うひまもなく忙しい日々を送っております。

すが、学生の頃イメージした姿には全くほど遠い現状です。しかし自分の生まれ育ったすばらしい町ここ宮崎にて、宮崎県民のみな様のために骨身を削り、ゆくゆくは日本の医療、いや世界医療の向上のため、病で苦しんでおられる人々のためにお役に立ちたいと思っております。

鉄は熱いうちに打てと申しますが、この熱い気持ちが決して冷めぬよう日々精進してゆくつもりですので、輩出の諸先生方よろしく御指導のほどお願いします。

自分のプロフィールを述べよとの事でしたが、以上の文章より大まかな事はわかっていただけだと思います。細かな事は、今後のおつき合いの中でわかっていたきたいと思います。

今後とも我医局、そして整形外科医の吉田をよろしくお願いします。



氏 名 渡 部 正 一

生年月日 昭和42年4月4日生

出身高校 宮崎西高校

出身大学 宮崎医科大学

血液型 O 型

はじめまして！今春宮崎医科大学整形外科に入局いたしました渡部正一という者です。自分は延岡出身で、宮崎西高を経て本学を今年卒業し、同時に結婚も致しました。相手は高校大学を通じての同級生で今春麻酔科入局予定だったのですが、そう予定通りはいきませんでした。合格発表の日に、結果を知って新居に帰った時の事程いやな思い出はありません。入局して2週間程は、大学病院で患者を診、帰ったら自宅にも一人患者がいるような状態でした。入局早々・新婚早々の精神的・経済的試練は続きますが、今までがスムーズに行き過ぎたと思って、これから更に頑張っていこうと思っています。

さて、うちの整形外科についてですが、第1の特徴はやはり野球でしょう。入局する前までは、『野球はてげてげでいっちゃが！』という上の先生からのお言葉もありましたが、1年生10人ともそんなことはないということは知っていました。自分としては野球は好きなスポーツの1つですので、体力作りにストレス解消も兼ねて励んでいきたいと思えます。

同門会の会員は100人を越えたと聞きました。これからもどんどん増えていくことと思います。自分も、一人前の整形外科医になるために努力を惜しまず頑張っていきたいと思えます。どうぞ御指導・御鞭撻の程をよろしくお願いいたします。



氏 名 渡 邊 信 二

生年月日 昭和35年3月23日生

出身高校 高鍋高校

出身大学 宮崎医科大学

血 液 型 B 型

今春、宮崎医科大学を卒業し、同校の整形外科に入局させていただきました。

出身は児湯郡の川南町で、高鍋高校を53年に卒業した後に一年間浪人し、宮崎大学教育学部特理過程に進学、だらけた生活を送りながら58年に同校を無事卒業しました。その後宮崎市内の公立中学校に勤務しておりましたが、小学校からの夢であった医者になりたくて一大決心の末、2年で退職し、親戚中の罵声と非難のなか二度目の暗い浪人生活に入りました。私が受験したときの倍率は史上最低で理科の教師という特技を活かして何とか合格できました。大学入学後はクラブに所属せずサーフィンに明け暮れてばかりで6年間で卒業できたのは好運であったと思います。

私が整形外科を選んだのはこれからの社会は老人社会で変形性関節症やRAなどが増加傾向にあり、整形外科のニーズが増えてくるであろうし、また国民総スポーツマンの時代が到来しスポーツ外傷もこれから増加していくであろうと考えたからです。スポーツ医学は教授の専門でもあるし少なからず興味を覚えておりました。

これから数年間この大学でお世話になるとと思いますが、自分なりによく考えながら努力して行きたいと思います。何もできない若輩者ですが、今後とも御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

教室同門の研究業績

(1991. 1月～1991.12月まで)

◆著 書

- 1 腰椎変性すべり症への instrumentation の応用
田島 直也 桑原 茂
新時代の整形外科治療No. 4, Spinal Instrumentation, 136-145,
メジカルビュー社, 東京, 1991
- 2 亜脱臼障害に対する白蓋形成術—Spherical 白蓋関節形成術
長鶴 義隆
図説整形外科診断治療講座, 18:202-211, 1991
- 3 骨切り術—大腿骨内反骨切り術
長鶴 義隆
OS NOW 股関節疾患の治療, 2:120-131, 1991

◆原著および論文

- 1 筋力トレーニングの効果に関する研究—柔道選手について—
広田 彰 田島 直也 黒木 俊政 押川紘一郎
宮崎大学教育学部紀要, 69:15-20, 1991
- 2 肩鎖関節脱臼に対する DEWAR 法の経験
中村 誠司 戸田 勝 永井 孝文 園田 典生
長鶴 義隆 田島 直也 押川紘一郎 河野 雅行
整形外科と災害外科, 39(3):1021-1025, 1991
- 3 頸部椎間板ヘルニアに対する Gd-DTRA 使用—MRI の経験
松本 宏一 田島 直也 田代 宏一 松田 寿義
鳥取部光司 園田 典生 永井 孝文
整形外科と災害外科, 39(3):1181-1183, 1991
- 4 大腿骨頭骨折の治療経験
立山 洋司 長鶴 義隆 森田 信二 作 良彦
坂本 康典 田島 直也 河野 雅行
整形外科と災害外科, 39(3):1203-1207, 1991

5 骨盤骨折の合併損傷

津曲 孝康 税所幸一郎 桑原 茂 金井 純次
麻生 邦典 田島 直也
整形外科と災害外科, 39 (3): 1208-1211, 1991

6 仮骨延長法による脚延長の2例

黒田 宏 武内 晴明 平川 俊一 黒木 俊政
立山 洋司 黒木 隆男 黒木 龍二 田島 直也
整形外科と災害外科, 39 (3): 1292-1295, 1991

7 股関節軟骨融解の治療経験

作 良彦 長鶴 義隆 森田 信二 立山 洋司
坂本 康典 田島 直也
整形外科と災害外科, 39 (4): 1416-1419, 1991

8 女子長距離陸上競技選手の最大酸素摂取量—第2報

黒木 俊政 田島 直也 黒木 龍二 中村真由美
日高 隆
整形外科と災害外科, 39 (4): 1489-1491, 1991

9 腰椎後側方固定術の骨癒合に関する検討—QCT・レ線学的検討を中心として—

田代 宏一 田島 直也 松本 宏一 柳園賜一郎
松田 寿義 鳥取部光司 園田 典生
整形外科と災害外科, 39 (4): 1549-1553, 1991

10 下腿の骨関節結核の2例

黒木 俊政 武内 晴明 平川 俊一 黒田 宏
黒木 隆男 黒木 龍二 田島 直也
整形外科と災害外科, 39 (4): 1577-1580, 1991

11 小児上腕骨外顆骨折の治療経験

戸田 勝 田島 直也 中村 誠司 永井 孝文
整形外科と災害外科, 39 (4): 1633-1637, 1991

- 12 腰仙椎後側方固定術の長期成績について
田島 直也 松本 宏一 田代 宏一 松田 寿義
鳥取部光司 園田 典生
西日本脊椎研究会誌, 17 (1): 152-155, 1991
- 13 胸髄くも膜嚢胞の1例
黒木 隆男 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
田代 宏一 松田 寿義
西日本脊椎研究会誌, 17 (2): 247-249, 1991
- 14 当科における神経鞘腫の検討
久保紳一郎 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
田代 宏一 黒田 宏
西日本脊椎研究会誌, 17 (2): 282-286, 1991
- 15 アイソトニックマシンによる筋力評価
黒木 俊政 田島 直也 中村真由美
九州スポーツ医・科学会誌, 3: 23-25, 1991
- 16 長距離陸上選手の運動生理学的検討—第3報—
黒木 俊政 田島 直也 中村真由美
九州スポーツ医・科学会誌, 3: 85-89, 1991
- 17 リハビリテーションの新しい動き—脊髄損傷のマネージメント—
田島 直也 伊勢 紘平
臨床と研究, 68 (7): 54-58, 1991
- 18 RA 膝関節病変に対する人工膝関節置換術後の持続的他動運動 (CPM) による後療法
桑原 茂 田島 直也 税所幸一郎 金井 純次
谷口 博信 麻生 邦典 作 良彦
整形外科, 42 (5): 839-843, 1991
- 19 宮崎県高校陸上競技選手の基礎体力評価—第一報—
黒木 俊政 田島 直也 黒木 龍二 中村真由美
日高 隆
日本整形外科スポーツ医学会誌, 10: 447-450, 1991

20 最近経験した骨肉腫の2例

黒木 隆男 武内 晴明 平川 俊一 黒木 俊政
津曲 孝康 黒田 宏 田島 直也
宮崎医会誌15 (1) : 142-146, 1991

21 宮崎県における外傷性脊髄損傷の疫学的調査—1989年度1年間における発生状況について

久保紳一郎 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
黒田 宏 黒木 隆男
宮崎医会誌15 (1) : 169-171, 1991

22 診断に難渋したバーチェット病による膝関節水腫の1例

黒木 隆男 柏木 輝行 黒木 俊政 桑原 茂
伊勢 紘平 田島 直也 武内 晴明 井上 勝平
九州リウマチ10 : 165-168, 1991

23 高校生クラブ活動選手の意識調査

獅子目賢一郎 田島 直也 黒木 俊政
臨床スポーツ医学, 8 (8) : 905-909, 1991

24 長距離および短距離選手の体力特性—血液検査および下肢筋力検査から—

黒木 俊政 田島 直也 坂本 康典 中村真由美
臨床スポーツ医学, 8 (9) : 1033-1035, 1991

25 Cybexによる脚筋力検査—第1報 女子長距離陸上選手—

黒木 俊政 田島 直也 黒木 龍二 中村真由美
日高 隆
理学診療, 2 : 32-35, 1991

26 腰部椎間板ヘルニア手術例およびキモパイン例における術後MRIの検討

松本 宏一 田島 直也 桑原 茂 黒田 宏
久保紳一郎 黒木 隆男
整形外科と災害外科, 40 (1) : 93-97, 1991

27 当院における多発骨折損傷例についての検討

坂本 康典 黒木 俊政 大江 幸政 吉富 健
寺田 和正 津曲 孝康 税所幸一郎 桑原 茂
武内 晴明 田島 直也
整形外科と災害外科, 40 (1):265-268, 1991

28 大腿骨頸部 fibrous dysplasia の治療経験

鳥取部光司 長鶴 義隆 帖佐 悦男 田島 直也
整形外科と災害外科, 40 (1):487-490, 1991

29 股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術 (SAO) の成績

長鶴 義隆 帖佐 悦男 鳥取部光司 田中 史郎
工藤 勝司 田島 直也
整形外科と災害外科, 40 (2):531-534, 1991

30 股関節手術における自己血輸血施行例に対する EPO の有効性について

森田 信二 長鶴 義隆 帖佐 悦男 黒木 龍二
園田 典生 坂本 康典 田島 直也
整形外科と災害外科, 40 (2):571-573, 1991

31 股関節部離断性骨軟骨炎の成因について

帖佐 悦男 長鶴 義隆 鳥取部光司 田中 史郎
工藤 勝司 田島 直也
整形外科と災害外科, 40 (2):574-578, 1991

32 椅坐位からの立ち上がり動作の分析

川越 正一 岡本 義久 馬場 秀夫 吉田 省二
長倉 紘一 田島 直也 山口 一郎
整形外科と災害外科, 40 (2):795-801, 1991

33 体育系女子高校生選手のメディカルチェック上の問題点

獅子目賢一郎 田島 直也 黒木 俊政
臨床スポーツ, 8 (11):1349-1353, 1991

- 34 前・初期股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術 (SAO) の成績—3年以上の経過例について
帖佐 悦男 長鶴 義隆 鳥取部光司 柏木 輝行
田島 直也
中部整形災害外科雑誌, 34 (4): 1191—1192, 1991
- 35 寛骨臼球状骨切り術 (SAO) の合併症に対する処置とその予後
長鶴 義隆 帖佐 悦男 森田 信二
Hip joint, 17: 200—203, 1991
- 36 先天股脱治療後の補正手術の成績と適応
長鶴 義隆 森田 信二 鳥取部光司 帖佐 悦男
立山 洋司
日本小児整形外科学会誌, 1: 257—261, 1991
- 37 形状記憶合金による脊柱側彎の矯正に関する実験的研究
松本 宏一 田島 直也 桑原 茂
日整会誌, 65 (7): 1141, 1991
- 38 Immunohistochemical Study of the Rabbit Disk Using Anti-chymopapain Antibody
M. Toda, N. Tajima, K. Ise, K. Matsumoto and H. Taniguchi
Combined meeting of the orthopaedic research societies of U. S. A,
Japan and Canada, P 172, 1991
- 39 An Application of Ni—Ti shape memory alloy for the treatment of scoliosis
K. Matsumoto, N. Tajima, M. Toda, S. Hirakawa
Combined meeting of the orthopaedic research societies of U. S. A,
Japan and Canada, P 183, 1991
- 40 Mast Cells in Fracture Repair
H. Taniguchi, S. Kuwahara, N. Tajima
Combined meeting of the orthopaedic research societies of U. S. A,
Japan and Canada, P 281, 1991
- 41 Autoregressive Analysis of High Order Activities of Normal Human Postural Sways
S. Hirakawa, N. Tajima, K. Sato and I. Yamaguchi
Combined meeting of the orthopaedic research societies of U. S. A,
Japan and Canada, P 328, 1991

42 宮崎県高校陸上選手の基礎体力評価—第2報—

黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平 中村真由美
広田 彰

日本整形外科スポーツ医学会誌, 11:527--531, 1991

◆学会報告

1 Low Back Pain in Athletes

Naoya Tajima, Toshimasa Kuroki, Shinichiro Kubo
AOSSM/JOSSM Trans-Pacific Meeting, 1991, 1, Hawaii

2 長距離陸上競技者の筋力評価

黒木 俊政 田島 直也 平川 俊一 中村真由美
日高 隆

第6回宮崎県スポーツ医学研究会, 1991, 2, 宮崎

3 短距離および跳躍競技者の筋力評価

黒木 俊政 田島 直也

第6回宮崎県スポーツ医学研究会, 1991, 2, 宮崎

4 脊椎脊椎腫瘍切除後に対する Segmental Square Spinal (仮称3-S) instrumentation

田島 直也 松本 宏一 田代 宏一 桑原 茂
第64回日本整形外科学会学術集会, 1991, 4, 京都

5 股関節症の成績不良例の検討

長鶴 義隆 帖佐 悦男 森田 信二 園田 典生
田島 直也

第64回日本整形外科学会学術集会, 1991, 4, 京都

6 腹部大動脈破裂により死亡した von Recklinghausen 氏病の側彎症の1例

園田 典生 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
井上 輝彦 河野 正

第25回日本側彎症研究会, 1991, 4, 京都

7 Ergebnisse der sphärischen Pfannenosteotomie für Coxarthrosen.

Y. Nagaturu, E. Chosa, T. Kashiwagi N. Tajima

7. Deutsch-Japanische Orthopadentagung, 1991, 4, Kyoto

- 8 RA股関節における中心性脱臼の成因について—第1報—
谷口 博信 田島 直也 伊勢 紘平 桑原 茂
麻生 邦典 金井 純次 黒木 龍二
第35回日本リウマチ学会総会, 1991, 4, 東京
- 9 慢性関節リウマチ患者における関節手術評価の試み
桑原 茂 田島 直也 伊勢 紘平 税所幸一郎
谷口 博信 菅野 卓郎
第35回日本リウマチ学会総会, 1991, 4, 東京
- 10 前・初期股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術 (SAO) の成績—3年以上の経過例について—
帖佐 悦男 長鶴 義隆 鳥取部光司 田島 直也
第76回中部日本整形災害外科学会, 1991, 5, 名古屋
- 11 RA強直膝に対するTKRの経験
樋口 潤一 麻生 邦典 木村 千仞
第3回宮崎リウマチ研究会, 1991, 5, 宮崎
- 12 経皮的髄核摘出術の小経験—キモパバイン例との比較検討—
植村 貞仁 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
谷口 博信 田辺 龍樹
第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎
- 13 整形外科的疾患に対する電気生理学的アプローチについて
中村 誠司
第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎
- 14 低カルシウム食ラットにおける肥満細胞の動態
田中 史郎 谷口 博信 田島 直也
第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎
- 15 Patient Controlled Analgesia (PCA) による術後疼痛管理
坂本 康典 黒木 俊政 田島 直也 伊勢 紘平
押川紘一郎
第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎

- 16 宮崎県内における整形外科領域のスポーツ傷害について—医療機関へのアンケート調査を中心に—
 桑原 茂 田島 直也
 第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎
- 17 再生不良性貧血の治療に続発した小児ステロイド性大腿骨頭壊死症の1例
 黒木 浩史 上塚 満 長鶴 義隆 帖佐 悦男
 柏木 輝行 田島 直也
 第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎
- 18 高度大腿骨頭沁り症の治療経験
 松元 征徳 長鶴 義隆 帖佐 悦男 柏木 輝行
 田島 直也
 第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎
- 19 10才代の股関節障害に対する治療経験(外傷後を除く)
 大田 博人 長鶴 義隆 帖佐 悦男 柏木 輝行
 松元 征徳 田島 直也
 第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎
- 20 左手舟状骨偽関節の1症例
 山口 一郎
 第22回宮崎整形外科懇話会, 1991, 6, 宮崎
- 21 RA頸椎のMRIによる検討
 黒田 宏 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
 久保紳一郎 黒木 隆男
 第20回日本脊椎外科学会, 1991, 6, 旭川
- 22 腰部脊柱管狭窄症に対する後側方固定併用椎弓切除術の長期成績について
 黒木 隆男 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
 久保紳一郎 黒田 宏
 第20回日本脊椎外科学会, 1991, 6, 旭川
- 23 股関節症に対する外反骨切り術の成績
 柏木 輝行 長鶴 義隆 帖佐 悦男 大田 博人
 黒木 浩史 田島 直也
 第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡

- 24 形状記憶合金の生体への応用
松本 宏一 田島 直也 桑原 茂
第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡
- 25 Chemonucleolysis における細胞外マトリックスの微細構造
戸田 勝 田島 直也 伊勢 紘平 山口 一郎
中村 誠司
第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡
- 26 Patient-controlled Analgesion (PCA) による術後疼痛管理
黒木 俊政 坂本 康典 伊勢 紘平 田島 直也
武内 晴明 押川 紘一郎
第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡
- 27 R A 下位頰椎病変に対する手術療法の検討
樋口 潤一 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡
- 28 椅坐位からの立ち上がり動作の分析—第2報—
川越 正一 岡本 義久 長倉 紘一
第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡
- 29 腰椎椎間板ヘルニアに対する Love 法の術後成績—第2報—
植村 貞仁 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
谷口 博信 田辺 龍樹 田中 史郎 樋口 潤一
第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡
- 30 MRI による腰仙部神経根の検討—腰椎椎間板ヘルニア例について—
谷口 博信 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
植村 貞仁 田辺 龍樹
第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡
- 31 非ステロイド性消炎鎮痛剤における関節内注入療法について (第3報)
三股 恒夫 田島 直也 伊勢 紘平 桑原 茂
税所幸一郎 松元 征徳
第81回西日本整形・災害外科学会, 1991, 7, 福岡

- 32 腰部椎間板ヘルニアの局在性と CTM の有用性について
 田辺 龍樹 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
 谷口 博信 植村 貞仁
 第35回西日本脊椎研究会, 1991, 7, 福岡
- 33 中高年者のランニング障害・外傷の実態について—アンケート調査から—
 平川 俊一 田島 直也 桑原 茂
 第7回宮崎県スポーツ医学研究会, 1991, 7, 宮崎
- 34 宮崎県における発育期のスポーツ外傷・障害の実態
 松元 征徳 田島 直也 桑原 茂 矢野 浩明
 松岡 知己 末永 治
 第7回宮崎県スポーツ医学研究会, 1991, 7, 宮崎
- 35 国体選手の健康管理に対するアンケート—宮崎県と全国を比較して—
 帖佐 悦男 田島 直也 押川紘一郎
 第7回宮崎県スポーツ医学研究会, 1991, 7, 宮崎
- 36 短距離・跳躍競技選手の体力評価—第2報—
 黒木 俊政 田島 直也 中村真由美 広田 彰
 第7回宮崎県スポーツ医学研究会, 1991, 7, 宮崎
- 37 全国スポーツドクター組織の現況について
 押川紘一郎 田島 直也 河野 雅行
 第7回宮崎県スポーツ医学研究会, 1991, 7, 宮崎
- 38 宮崎県高校陸上競技選手の基礎体力評価—第2報—
 黒木 俊政 田島 直也 中村真由美 広田 彰
 第17回日本整形外科学会スポーツ医学会, 1991, 7, 神戸
- 39 形状記憶合金による脊椎側彎症の矯正に関する実験的研究
 松本 宏一 田島 直也 桑原 茂
 第6回日本整形外科学会基礎学術集会, 1991, 8, 京都
- 40 抗キモパイン抗体を用いた家兎椎間板の免疫組織化学的研究
 戸田 勝 田島 直也 伊勢 紘平 川野桂一郎
 第6回日本整形外科学会基礎学術集会, 1991, 8, 京都

- 41 頸髄麻痺をきたしたRA患者の手術成績
久保紳一郎 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
第26回日本パラプレジア医学会, 1991, 10, 東京
- 42 股関節手術における自己血輸血とエリスロポエチンの有効性について
帖佐 悦男 長鶴 義隆 柏木 輝行 森田 信二
田島 直也
第19回日本リウマチ関節外科学会, 1991, 10, 松山
- 43 末期股関節症に対する外反骨切り術の限界
柏木 輝行 長鶴 義隆 帖佐 悦男 田島 直也
第19回日本リウマチ関節外科学会, 1991, 10, 松山
- 44 寛骨臼球状骨切り術前後の三次元的被覆について
帖佐 悦男 長鶴 義隆 柏木 輝行 松岡 知己
田島 直也
第18回整形外科バイオメカニクス研究会, 1991, 10, 仙台
- 45 椅坐位からの立ち上がり動作の分析
川越 正一 岡本 義久 長倉 紘一 田島 直也
平川 俊一
第18回整形外科バイオメカニクス研究会, 1991, 10, 仙台
- 46 RA股にみられた巨大な腸腰筋滑液包炎の治療経験
樋口 潤一 木村 千仞 税所幸一郎 松田 寿義
和気 典雄 田島 直也 伊勢 紘平 桑原 茂
第4回宮崎県リウマチ研究会, 1991, 10, 宮崎
- 47 フィンランドにおけるRA外科の現状
税所幸一郎
第4回宮崎県リウマチ研究会, 1991, 10, 宮崎
- 48 RAに合併したD-Pc服用中に見られた重症筋無力症の1例
松田 寿義 木村 千仞 税所幸一郎 樋口 潤一
市原 正彬 川崎渉一郎 田島 直也 伊勢 紘平
桑原 茂
第4回宮崎県リウマチ研究会, 1991, 10, 宮崎

- 49 Radiological findings of the lumbar spine in rheumatoid arthritis
K. Ise, N. Tajima, S. Kuwahara
第2回日中友好整形外科学術シンポジウム合同会議, 1991, 11, 北京
- 50 An Application of Ni-Ti Shape Memory Alloy for the treatment of Scoliosis
K. Matsumoto, N. Tajima, M. Toda, S. Hirakawa
Combined Meeting of the Orthopaedic Research Societies of USA,
Japan and Canada, 1991, 10, Canada
- 51 Mast Cells in Fracture Repair
H. Taniguchi, S. Kuwahara, N. Tajima
Combined Meeting of the Orthopaedic Research Societies of USA,
Japan and Canada, 1991, 10, Canada
- 52 Autoregressive Analysis of High Order Activities of Normal Human Postural Sways
S. Hirakawa, N. Tajima, I. Yamaguchi, K. Sato
Combined Meeting of the Orthopaedic Research Societies of USA,
Japan and Canada, 1991, 10, Canada
- 53 Immunohistochemical Study of the Rabbit Disk Using Anti-Chymopapain Antibody
M. Toda, N. Tajima, K. Ise, K. Matsumoto, H. Taniguchi
Combined Meeting of the Orthopaedic Research Societies of USA,
Japan and Canada, 1991, 10, Canada
- 54 New Segmental Square Spinal Instrumentation (3-S) for Lumbar Degenerative Disorders
N. Tajima, S. Kuwahara, K. Matsumoto
Fifth International Conference on Lumbar Fusion and Stabilization,
1991, 11, Osaka
- 55 股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術 (SAO) における私の工夫、コツ
長鶴 義隆 帖佐 悦男 柏木 輝行 田島 直也
第18回日本股関節研究会, 1991, 11, 大阪
- 56 末期股関節症と腰痛について
柏木 輝行 長鶴 義隆 帖佐 悦男 田島 直也
第18回日本股関節研究会, 1991, 11, 大阪

57 Cathepsin L による Chemonucleolysis の検討

伊勢 紘平 戸田 勝 三股 恒夫 桑原 茂
田島 直也 勝沼 信彦 唐渡 高枝
第82回西日本整形・災害外科学会, 1991, 11, 長崎

58 Ni 合金使用時の生体へのNi 溶出について

松本 宏一 田島 直也 桑原 茂 山口 忠敏
第82回西日本整形・災害外科学会, 1991, 11, 長崎

59 下肢悪性骨腫瘍に対する患肢温存手術の機能予後

福田 健二 黒木 隆男 桑原 茂 田島 直也
第82回西日本整形・災害外科学会, 1991, 11, 長崎

60 股関節症に対する THR の成績

柏木 輝行 長鶴 義隆 帖佐 悦男 田島 直也
第82回西日本整形・災害外科学会, 1991, 11, 長崎

61 R A股関節にみられた iliopectineal bursitis の経験

松田 寿義 木村 千仞 税所幸一郎 樋口 潤一
田島 直也 伊勢 紘平 桑原 茂
第82回西日本整形・災害外科学会, 1991, 11, 長崎

62 頸椎椎間板ヘルニアの MRI 所見

福田 健二 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
平川 俊一 谷口 博信
第36回西日本脊椎研究会, 1991, 11, 長崎

63 中高年のスポーツ医学—特に整形外科領域におけるスポーツ障害について—

田島 直也 桑原 茂 平川 俊一
第2回日本臨床スポーツ医学会シンポジウム, 1991, 11, 横浜

64 陸上競技選手の体力評価—長距離および短距離選手の比較

黒木 俊政 田島 直也 中村真由美
第2回日本臨床スポーツ医学会, 1991, 11, 横浜

- 65 Studies of the Movements in Standing up from a Chair
S. Kawagoe, N. Tajima, I. Yamaguchi, Y. Okamoto
XIII th International Congress on Biomechanics, 1991, 12, Australia
- 66 投球動作時の腰のバイオメカニクス
田辺 龍樹 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一
黒木 俊政
第4回九州スポーツ医科学会, 1991, 12, 福岡
- 67 アマチュアジュニアボクシングによるスポーツ障害について
獅子目賢一郎 山口 守 田島 直也 平川 俊一
黒木 俊政
第4回九州スポーツ医科学会, 1991, 12, 福岡
- 68 Perthes 病に対する大腿骨骨切り術と Salter 骨盤骨切り術併用の適応
長鶴 義隆 帖佐 悦男 柏木 輝行 田島 直也
第2回日本小児整形外科学会, 1991, 12, 京都

編 集 後 記

同門会誌第4号が出来上がりまして、皆様のお手許に届ける事が出来ました。毎年の事乍ら、医局としては、宮崎整形外科懇話会、スポーツ研究会、リハビリテーション研究会等を開催しつつ、今年九州リハビリテーション懇話会も無事に終える事が出来ました。同門の諸先生方の御協力のお蔭と感謝しております。平成5年3月には日米整形外科スポーツ医学国際会議がハワイで、田島教授の会長の下で行われ、また7月には、日本整形外科スポーツ医学会が当地にて田島教授の会長の下に行われる予定であります。本年は新入医局員も10名の数にのぼり、医局の充実感はすばらしいものです。

皆それぞれの抱負を本誌に語ってくれております。この若い芽を、どのように伸ばしていくか、医局及び同門の大きな仕事ではないかと思っています。

今年は更に同門会の岡村先生、甲斐先生と、地域医療を担う先生方が入会して頂きました。大学と地域とが、一体となって整形外科医療に取り組める日も近くなったのではないのでしょうか。最後になりましたが、お忙しい中、玉稿をお寄せ頂きました諸先生方へ、厚くお礼申し上げます。平成5年の第5号も素敵なものとなるように念じまして編集後記といたします。

〈伊勢記〉

宮崎医大整形外科学教室

同 門 会 誌

発行日 平成4年11月30日
発行者 宮崎医科大学整形外科学教室同門会
編集責任者 伊勢 紘 平
印刷者 (株)愛文社印刷所